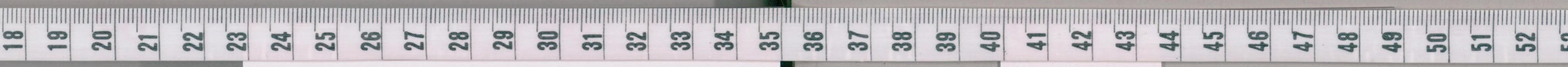


863
77

鳴の井



国立国会図書館 タイトル『鳴の井』 請求記号 863-77

ガラス使用

鳴の井

863-77

森田君の御佛もあらぬ水の無あり

志事なるの御佛もあらぬ水の無あり

志事なるの御佛もあらぬ水の無あり

志事なるの御佛もあらぬ水の無あり

志事なるの御佛もあらぬ水の無あり

志事なるの御佛もあらぬ水の無あり



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately six lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately six lines of cursive script.



一の松の枝よむねを根たすむるは
告こくをさふりあはれは松の二松を
披るくまはれは松の根たすむるは

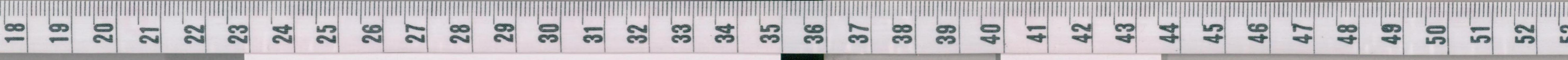
文化六年三月三日

露柱菴云々

あつれ〜カチ



これ〜
七種〜
を〜
梅折文馬の鼻先通るを
棟上の餌を投ると柳丸
うまの柳人〜



賞や月よとちり包厨中
ちり果の骨とて響く響く
曉夜や花のつらふとあや
しき世や力をいましてその心
煙如く余の雲の戸尻が
きうとこの空はくちの響き
塩賣の不二見てのちや木瓜のふ
ちりくちり振るや子のひびき

はしとて鳴るやうせ種おろし
道の目と立語アまはれ彼岸が
と浪の泡をうらうら故蝶が
赤房の鷹や小臈ふたるの風
か代乃立のきかひ柱に

日暮里ふけ

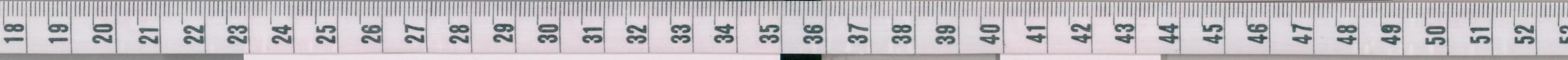
りめくちり茶の花乃西東

台嶽

玉きりれ上野のきりり嘆き
人こりけりけりけりけりけり
おほいさあしりりりりりり
蒲公英や箱灯帳の下りり
まの雪家鴨うこけりけりけり

山寺や衣うりりりりりり
詠歌や牡丹冷人消りりり

卯のきりりりりりりりり
一飯をんりりりりりりり
川の末りりりりりりりり
七曜のきりりりりりりりり
水ふけりりりりりりりり
あきりりりりりりりりり
籠のきりりりりりりりり
富人けりりりりりりりり



瘦百合のまをりしと咲も阿る山ぬ
宵月紅虎元や水鏡啼
早苗と秋鎌倉男あひひり
末や引本と秋おく瓜の蔓
明窓を明も雨も片端山に
夕立や露よ水玉の流よ秋
遠よまよ遠のともよ由の峰
夕魚の宿の橋より翹よけ架
帷子のしれうと襟よ通る人
老僧の銀杏をまをり土用が
女叢の音や蓮よ伊都の子
秋能子の小字をまめや秋後き
鯉洗よさきに写と扇に
走まをり伸するはもやの中
よ筆娘あて伝々と木下閣

子ゝ根や杖立々あうは首
ての川野まさるるにゆふ
日一合ふとと夏はよき名也
口林一雁渡る夜のおの
杖の蠅あさうお輝を矢ひ
燈籠やふとた影もみむ
針植やとるる唐は
水先の一株木揺咲ふ

小夜碓う榎打て果も
おれとのり坐と月の後河
明月やゆき林おひの家
小お嵐お負の花恙あ
きましくひ啼や風ある夜
野の葉山子雪物速の早
駒牽よともく賣一太は
肩こゆけ園の尾をを極



五方の香や ぬけのあめは市の神
杖の暮灯をまじり 嵐髪きりん
志しき松の松おとし 磯馴るや
鳩吹ふきりのせき 咄れけり
薄み葉旅さきり 子、あめ也
鹿のあめ ひとくち 色ふおぬり
すき野や 杖ふらり 子、あめ
肌寒や とも火ふらり 夜の煤

志しきや 川も年、うれ小田の居水

薄暮や 花葉をのこし 雨のき
こりしや とも 後持流に 鴨の原
あゝ 蟬のなきの 口も かしを
葱とらに 園のき水 かしを
こよらに けりとも かしを 鶯鶯
け杖ふき 輝かす けり 風の吹



やまのしほ

松よ雲はつゝまに日くからるる
鳥やあまふ十おとす明し
る浪やみよ新しき夕の細記
馬驚く庇柱や冬日け
岸買ふる帰まふしほのしほ
胸や世をあらへ曳のふせき
闇深き氷戸うらまゝる較のあ

うきあひかや中もよひの遠く
雪のり家々あふ簾よ住まへ
夕しのこき根小あふちをのり
赤ひ危巻よあまししてまきり
水俣や追ひ新も来すの石
河のせあやうお舞や定ぬの冬
空き夜のまほまほの嵐の乳
冬枯や親子負くる茶根馬



古湯安人の表文事の極る
甘き水の鳴りけ雨や釣初なる
七年の如し難中し一おど

こみ公羽の境畧い

解き焼もや所はま新し朝あ紫

やきめいはいま閑古鳥啼

雉啄

鉄もく音能訝ふ風まて

末人

池よりゆかり権をまま新

東杏

いまの袴孔皺やのまん

暮玖

馬の嚏をうけしんまを

桂露

おれいはいけの中まはくも

全鱗

野田新おまの鐘も星る水

田陶

かゝるま思ふまをあるいれ

麻佛

遠く村田中の聖のまき猪

亀石

孝の聲、砂文むすひ、存枯文
百亀
いや白々、籠為、鞍の古骨
帰山
三日月の影、薄き掛灯
席囃
菊文真、顔も四十、うら後
人
着飾文して、まゝ物、雁の聲
杏
うら、目も、あつ、鍋、蝶を吹
玖
もる、その、針のは、裾、おぬ、信、日、の
路
小松立野の妻、ハ、お、つ、う、り、の、
鱗

雉子チドリの子、おち、ち、ま、あ、く、お、は、を
陶
お、も、こ、お、菴、文、琵琶、の、音、を、
佛
の、い、り、舟、の、綱、の、の、か、ち、を、
石
江、口、文、表、を、う、ら、ま、の、
龜
紫、陽、花、よ、あ、つ、い、お、袖、の、軀、を、
山
梓、文、む、を、お、お、母、の、茶、お、水、
杏
又、平、も、下、戸、を、ひ、つ、て、あ、つ、ま、を、
人
冬、竹、柳、の、壺、を、め、く、
甬



もろ鳥のふゆふ輝を袖あて
西も東も露のうらみあや
は月の志氣たるや暈を
ももも杖をたたく源を
植つきし羽翹槍を回向せん
三輪の山もよゆゆる古々
時雨降る宿のひらき流し
うはらふあやめ寒菊を泣

春岨
時来
崖水
苔丈
丁儿
岐抱
淇沈
應記

とよ野のあまふみの新なまき
繩をよきあめの小家つるや
伊豫の湯ふ命を延るふこの月
志ほし笑き客ふ並ふ嬰麥
あつたきとていやはゆる牛の鞆
たひきれ五器を中へ飯時
花もしらけりさかきもらんや
麦熟とて沖抄ふ啼

隣鳥
暁
頂
水
来
儿
丈
沈



蟬丸の孫歌あつれふ妻の暮
戸をともくしてまのひかひけ
白雲のももき空を経る
草鞋も杖も捨る松一箇
冬くればいづるもかこそ
あゝの夜ぬき雪九事ひ
と種のあるをいひふ立つれ
ふ枝の樟能陰もぬく

抱 鳥 記 頂 曝 来 水 丈

狼の息あはれものを縄うき
手わらひ舟の門をきつ
みぬの京もく離を祭るん
み経能上ふきり眠き八月
世ふあれはつるまもちうな
麻の蓬のひらきせん
日中の日はとまひたる依雨
赤城の山とよきや苗の歌

儿 抱 注 記 鳥 曝 来 水

ふのほとくと谷もあふるるあり
四つにちかきあせしもの英 頂 儿

青 題わのひ

笠葉や落あつては敷まの水 さうと 叙来
喜柳やせつづく月も丸うなる 芦 湮
鶯の繪ふらつきたては花まきう 訪 牛
か代や揉うもをちぬの雨 百 亀

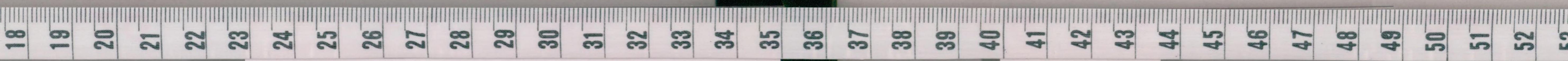
灌佛やよとくとも蝶の歌 鈴 石
家さる富のひと川文咲文まり 宇 山
露の蒼卧緒のこねくたるく 禹 靴
いとひりも蚕文せまき住居が 布 泉
大木の枯枝を落て巢う鳴 桠 牛
葛塚も西念もあつはたし道 道 貫
河鮎ふ著るもはち梅の會 鳥 流
白梅のこころさよの月お 采 壽

鶯をきくはるる母とや極楽寺
 串のし時や焼蛤もたるはもの
 梅の枝ゆめ小雨の影を
 親と子の世をくまや花の宿
 たる影風や中を文定を隅田川
 さかからよは海へうつる月あは
 菜の花を油ひきまよと抱むき
 めきくと土提の柳の二月の
 玉扇せ

槐道
 兔駢
 蕉渚
 植ふ塚
 知来
 也水
 洗山
 玉扇せ

乙牛よも町をまもむは花の基
 萬歳は親子もゆいと名のり多
 羽衣の松も母孫とや春の風
 志留らとや松菜もくはて鳴鶴
 芥焼くあめなつとも志留ら
 旅芝の葉をふらと影をさか
 ちかてちかて春をあはれ
 とまきのまをなまよ柳の

菊社
 蘭舟
 稽中
 時来
 宜原
 曾明
 同草
 龜石



弱る啼や木螺のよの巢をたて

五班

秋の鳥もけりて帰る雁

班雀

里中の目も賞する柳の糸

朱簾

菴の花もお口のまきもまき

几杖

松明や夜をのまきて鳴田螺

圓耳

いくせお波岸のりか茶搦木

漆楪

海棠の花もまき尾長をい

和曉

とれりおほほふあれ針ぬ山

藍水

乙子の雨守ふあははれは早戸

隣松

飯蛸ふまきや暮りたるや鷹

都雀

うらみまきあつたに鳴く遅梅

高竹

佐保姫もみき居のわつ吉野山

烏扇

うら雁目も花もいよ中ふ

大旭

実をまきむ子橘やけりて

荷刃

思ふも花のけりて鳴る鳥

樊圃

つらしてまきまきまきの蝶

千のせ

夕東風や鳩の親子をまづり

田陶

ちやうと人形をくたさぬ

陶

雪の一舞をまじり東より架

梅見

少年

子山やまはらもちりて風を

笈嵐

とまじりてもるふらりてや園の梅

稻舎

鳴る雁おれし新もちるやうと

竹雨

くらりてはれしあまの邸の梅

稻舎

あふとてもさるにさしぬ梅の乳

呂情

これ何よの梅の節句のよの

曾我

花の世をまじりてはれしよの

代筆松

うらむし日や人ふ別をまじりて

東起

木の多枝余のふ陣をまじりて

文竹

舞蝶の枝の子を親のよを

芦舟

いづくもよちりて菊の根を

多摺

人のあま世話のまじりて

文棹

菴崎の駿河もつれと規け

玉珂

雨思

疾ちりやうきまてはる人ま

丹人

たる雨の豊ちをくさる蟾

東杏

ころんゆく野面の空や疾の丸

キ言

夕雲や温まのふきをまきよ青丸

かち磨

人きと見えやつくる扇やま山

疾塘

子の戸や遠山や川の序ま

梅豊

よ浪のこころやうらもいと

桂寄

乃さしも賞東ちきし花の峰

葛三

濱栂もみ大政の朧目

星布

ついでもち一本もちきし梅

智窮

いせふ入るカやあきく河

魯牛

との寺もふよはらり東山

白水

夜のぬぐもれ蛙の居すり

柳古

ちりやの歌よふも〜 其章

おこししてと終に逢ふるまのち 葵洲

本母寺とてう〜るまをせは月 五楼

正月の雨ふ服〜 朽もあは くらく

とよねや屋を動〜 朽もあは 米原

まもあま〜 朽もあは 玉村

お梅よ〜 朽もあは 巢兆

藤の花つ〜 朽もあは 菊也

とねねや〜 のちかた 伊豆 馬來

古学のつ〜 朽もあは 霞の乳 漫く

如き〜 朽もあは 二月の〜 有斐

正月のひら〜 朽もあは 田の月 近江 五来

ふ〜 のちかた 朽もあは 対竹

能中雨〜 朽もあは 長者の柳 平角

花見日〜 朽もあは 素々

折口五郎左衛門の川 産の丸 フキ 玄蛙

横吹 エト 成美

某のおや 門 胡準

又 女 大妻

志 女 應子

茂 山 龜山

喜 旦 旦

松の旭 亥 亥蟻

二日 カツサ 輪之

お代 イヨ 徳何

墓 大坂 標堂

お 上毛 外島

本 雀 掌石

河 雀 采蝶

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

葉鼻

芦の芽ももへおのちやう鳥

玄々

葉のうらやまのうらやまのうらやま

雪刀

葉の雨ももへおのちやう鳥

五棟

葉のうらやまのうらやまのうらやま

松古

葉のうらやまのうらやまのうらやま

つくと

葉のうらやまのうらやまのうらやま

家副

葉のうらやまのうらやまのうらやま

家三

葉のうらやまのうらやまのうらやま

三机

葉のうらやまのうらやまのうらやま

麦二

葉のうらやまのうらやまのうらやま

文馬

葉のうらやまのうらやまのうらやま

鳳林女

葉のうらやまのうらやまのうらやま

雨女

葉のうらやまのうらやまのうらやま

馬卷

葉のうらやまのうらやまのうらやま

山鼻

葉のうらやまのうらやまのうらやま

文了

雪の根ふあつてのけしう社景

汝蘭

雪の根ふあつてのけしう社景

鹿乙

雪の根ふあつてのけしう社景

蕉雨

雪の根ふあつてのけしう社景

伯先

雪の根ふあつてのけしう社景

近口

柏翠

雪の根ふあつてのけしう社景

カ、

車大

雪の根ふあつてのけしう社景

鹿古

雪の根ふあつてのけしう社景

エケコ

旭浪

雪の根ふあつてのけしう社景

スハリ

梅間

雪の根ふあつてのけしう社景

麥阿

雪の根ふあつてのけしう社景

臥央

雪の根ふあつてのけしう社景

出羽

何道

雪の根ふあつてのけしう社景

谷耕

雪の根ふあつてのけしう社景

不材

志し松や梅に中をくまふ仕舞 李因

若草や蘆葉の介する物もひ 生歌

音の弱の口より重しや去の風 乙亥

あきのいささ夜をみる春雨 月窓

あきやよめのかきも影もえん 李咏

ひさかたはあきのあきも煮雪熱 咫尺

子のあきもあきも志し柳 鼎山

宵の雨はあきのあきも新橋の歌 持化

あきお家もめでたく花のあきも 野松

去のあきのあきもあきも山 大呂

七種や秋あきもあきのあきも 子安

あきのあきも夜に風吹ふあき 律太

山吹やあきもあきもあきも 沙路

あきの夜のあきもあきも月のおもい 素鳥

あきもあきもあきもあきもあきも 文々

あきもあきもあきもあきもあきも 詠帰

上毛

陸奥



夏までも冬位の多勢焚くま

まはのゆきをいふまのあひて

上毛

卯の花ははきくまのうらむ村 茅磨

蝶もあやしく入る五月晴 忌盛

常と津るるや決断のともなき 市麗

いづれも荒れしきまの紫うれ 有憐

るるのまの物さかん更衣 桃儿

何れも膏たのちまのあを砥石 巨孫

かんとる啼や小鳥の果あり 沙川

ト京は下向るこひのふひさこ 砂道

笄の淋しきをいふこころい 霞樵

馬走の木トハくく 二蝶

夏の月あきありあけぬや 琴帝

清水やう山やうれ 稀星

まの丸のひやうとらて夜の日 魚柵

よき井戸を垣あてふる花標 菅菰

瘦てさく見ゆる多き牡丹の 南桑

川物の月ふきとねや屏斗 旬竹

田を植る土地ふれ果敷い 南謨

暮る日やおもひの五日雨 南圃

山々の地ぬきさるし 法堂

みしのおふあるやとあつ作のあ 末儀

松風の對し多しよの夏衣 桂河

旅先やとふくまき 母恋の林 蒼々

楓のいさよとあもれと保とまきし 伯成

玉ちき 松のまきとあまき 知足

せきすけのまきのいさよと 杜若 雀兒

とちき 柳のいさよと 燕子花 櫻柳

卯のまきとね冷人のきのいさよと 塊子

控のまきとあのいさよとのまきと 吳舟

みしのまきとあのいさよとのまきと 蚊ぬ



よー切や送る哉新弱けめ 敬積

夕ちやあしあきいり三日月 石嵐

恙ちく美根とこー更衣 和草

鼻先のさきくしやちの聲 素伯

新きのきんハ梅も世の業お 花英

うもくく雀ものとけまゝ塵 杉江

雨ちく蜂のくく浪香お 咲晴

鳥の蟬嵐の蛸と鳴くハ秋 里休

三日月の事いふ時牡丹が 晋車

新ちや清水のまの梅の家 岨香

小の鞠のちよくはははまきい 以水

権佐やうくく蝶の貞 鈴石

奇あねいふくゆるさね堂い 亮ル

人のちる翁はくく夏木立 雨桂

多紫山旭ちきくあさく 采氷

日さけよまかしくやお松泉 梅里

蓮の葉おまきちよほてらきよき

東洞

吾書は日傘もや〜蕙子巻

桧山

道よまや世を捨てらる定らる

不一

浄〜とて言はま〜き〜常賣

阿石

花河ら〜く〜よ〜ひ〜き

乙雞

篠原らまも〜るや蜂の聲

星鳥

日〜き〜ひ〜之枝祭い〜るも

量可

のきり〜狭装のゆえ〜るも

玄々

日〜き〜ひ〜ゆ〜園ま〜て〜るも

巾景

蚊よしき〜様恋〜ま〜せ〜杜の月

青郊

蓮の咲布〜き〜る〜る〜被〜打

記石

名木の子とま〜て〜ら〜る

秋塚

牛士の牛をま〜は〜し〜る夏郎が

縣口

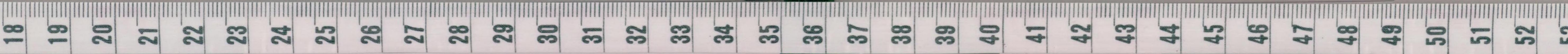
夏氷あ日の月お〜し〜る

謂水

野〜と〜山〜と〜語〜ま〜ま〜田〜ら〜ら

下毛

ち〜さ〜枝



笠のついでにさへ

みくら

水くさき宮まゝのゆき

貝文

ふれりや野中よとるま

魚

黄あよ中もも子の嫌

角

清さや小笹とふる

友鯉

卯の心おちやお中の蜂の影

和井

夾子川の岩中照りよる

嵐夕

夏まやるさるさる

百楞

首飾をいり

しす

柳莊

蠅打をすく

柯真

まき服を啼

武日

まきの花を

乙堂

木下園を

推鹿

くまの

素架

夕暮のふよみ影ハ秋也ちり

正子

司凡

ひよつ花うりせり秋の甚しき

其得

山鳩の花を輝くも一草いれ

其牛

花よりも茄子八年のちり

清象

あゝ浪や小松中の百合花

秋水

大樹寺の松より一草と雲の峰

九琴

さし一草をけしけ旅のおも

出唄

咲く我人もわかれ秋の花

陸奥

雄測

うらやまの秋の雨

秋夫

雪川をいさよもるやかん

全書

雨降河を一期の秋の心

真也

螢や花の中山をうつ

真々

卯のさやほりさうれて

羽丹

稻磨

勝の女の鍋漬めたり

文志

あけあきと秋のさやほり

甘苦

赤ききし河を向て噴く

眉山

涼風く癖のほゆる門田

京

蒼虬

月ふれおをそ葉のやみ

素頑

子海手市にそら花牡丹

魯陔

推業やるのかれはまの虫

桐栖

さしこの眼をそめまの袖

かに

のり

籠 影をりひ

ハ翔やそくし稲口おはと

信州

席杖

杖のおれそよはらるる目お

そ帯

まじりも退るる杖の雨

蕉山

まじりひ啼き冷るるけ

文くに

かみ風おれしそらそ秋のれ

蒼耳

ちし田や蚕居るる朝日歌

馬毛

桐一葉菴のりしけり

真蓑

ほろも物も一ろくせん秋時雨

魯恭

むし〜と雁の巣ののもあそび

阿夫

雨よちあつきのあふりや杖の山

亭園

けや鹿あそび〜いさぎの葉よ度

菊叟

蒲団まぐ 括子ちあめん後の目

吐文

門の本ま〜こか〜おんや

一茶

喰〜酒〜雀の巣ふじ雀丸

希言

雲の音お風ふほ〜け〜の邊

雄尾

明日や〜〜ま〜も〜

向松

い重と〜も〜な〜も〜ぬ〜

射毛

秋日歩るよち〜のき 旅探り

九阜

あ〜〜い〜何〜ち〜井角から

群翁

二好のふ〜〜い〜ま〜い〜は〜

壺半

夕起の后おゆあ〜や〜本権

蓬吉

比丘比丘尼大角豆畑も雪の月 朔糞

この以の照口の津一雪の指 尺布

菊の鳥や竹をきく園も一ささる 仲くら

飛鳴ふ何をあせると杖の蟬 東鳥

立杖の追おひうして吟啼 百碩

稲妻のいくおふとく川死蚕 大死

雫の戸や故ま白糸の置金は 其堂

子笛ふ拙りきくお引板窓は 拾翠

おれふおん津やうほく月の雨 護物

用ちうのふとちうの秋の聲 碩布

不二の根も煙らぬものさし書 九藏

花吹雪のさゆあはれふと書 菜也

白糸のささる杖の部サカミ 方斛

稲妻やまの佛のちの迹 量字

ふ露の雫や杖のおゝ地ほろ

時雨ふくもおぬくも啼杖の鹿

ちき風のゆくもきても虫の鳴

うきやうき夜の越や子の月

夕お花をまきけり杖も外

湖の鯉やあま歌々入の目

はよのふらふらと流く杖の銀魚

雀の柵あゝるゝ杖の口わ也

人々ふらふらと真打流るゝ乳

おの菊地をきいやくらうき

杖のそとをきいやくらうき

既らのまはけいやくらうき

近やふむい合きう山の月

堪きいやくらうき

あゝの紫は蛸文踏ら杖のり

野の蝶紫露のむきやくらうき

子く女

秀潔

美豊

青紫

桑日

又也

去暇

下凡

隣鳥

一芳

乙明

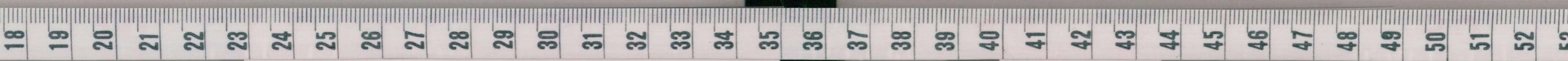
ト二

白水

冬雪

長松

三笠



子の戸にけいふやあんと鈴の杖

子鳳

う群や横ふひと鉄落しあ

るき妻

人あつて芒の杖をあらうてや

杖扇

むしあつてさる籠廣き尾ふさ

書鳩

村雨のあふふさつて五寺

百桂

たゆやうら鳥の籠や鳥籠

左右

ふさあつて馬の杖さる長つ

飯扇

杖扇や志賀の小家のさる風

如恒

赤松や木の岡よりゆるるる月

足耳

うくくつて子の杖や杖の事

亀陶

いふ事とて杖さるやさるのふ

稲里

暮あつて杖さるあつてあつて

真雲

あつて杖さる杖さる杖さる

杖傘

あつて杖さる杖さる杖さる

文真

あつて杖さる杖さる杖さる

東舎

あつて杖さる杖さる杖さる

若津

白き花のふくも鳴き声

京川

梅風のあしあきも鳴き声

鳥橋

箱のふきも此野も鳴き声

画籠

くろくろのふきも鳴き声

府佛

むやねも鳴き声あきも鳴き声

鳳竹

おけりも鳴き声あきも鳴き声

千班

あきも鳴き声あきも鳴き声

亮島

セタヤも鳴き声あきも鳴き声

猿来女

丁寧五日の暮き声の杖のふき

席唄

初林の暮きも月きも鳴き声

尾ハリ
岳路

知もも鳴き声あきも鳴き声

木海

よの家も鳴き声あきも鳴き声

イカハ
卓池

あしれも鳴き声あきも鳴き声

アキ
葛光

ゆきも鳴き声あきも鳴き声

大坂
井六

路のりも鳴き声あきも鳴き声

八千坊

ふしとて^て望^みの^ちや^もなる^さの^か 一草

棒^やい^く植^ても^れの^れ 巨^辻

雨^のれ^はい^らふ^をも^ちぬ^る 春^人

さ^らふ^とく^の流^る山^の 目^屋

まつ^りや^あま^る雁^も一^くも^や 玉^屑

杖^のひ^らく^まつ^る在^る 西^孤

引^よる^さう^の暮^らす^る杖^の山^に 芳^之

隣^一も^一里^ある^家の^まま^に ち^り

杖^をさ^すも^雀々^拍子^き 五^芳

雲^をか^しよ^金文^柄の^れ女^の名^を 浦^人

杖^をか^しや^みの^まま^に人^の歌^を 花^嬌

夕^のれ^の桐^のこ^のり^の 文^東

多^くの^れふ^りわ^とち^のや^も赤^糖 東^水

け^い念^をあ^まる^るの^巻 越^後 喜^年

ま^の杖^の油^の白^のく^も 奥^之

智のまを先原よりて菊のふ 吐屑

残端してまをばらもやまのあ 其負

本れくとまをかきんをの月 樽多

明日や雁の心は推の言 保成

五位の影はあはれは林の丸 起る

杖はくり歌のやま菊のまを 文寛

風より戸をまをまをまを 宣召

まのまのまのまのまのまの 石海

奥つゝまをまをまをまのま 嵐児

あまをまをまをまをまのま 渭虹

まのまのまのまのまのまの のま

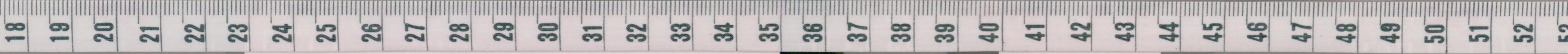
まのまのまのまのまのまの 清足

まのまのまのまのまのまの 吾長

まのまのまのまのまのまの 左母里

まのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの 雪仙



すまゝの夜のゆゑに水家陸奥の三徑
ちよとよと居る身も秋の音
うはりの里よりなごむの声
鞠もくせとくゆつ山
坊の戸の藜の杖とをきとふり
算とく孫の里とく秋の杖
十六おやきとねたと虫の音
玉同

山切や雨ちよとく秋の杖
ふちつ居る連もくも鳴ひまを
日人
車いのは仲秋月

雨の神女おちよとく秋の杖
乙二

冬 秋の杖

凍蝶のゆゑに秋の杖
むやとく西とく秋の杖
枯屋
豊水
壺水

白きとまきつしけしる後よけ
と千竹

古里のあしなむらや神あまの
吹石

松の宮日よほさし一人の指
雪芝

月影よさらしもの形一を本立
芳字

鳥のく鼻つし今手ししれ
其勢

人形やちのあましくは葉あき
丸篠

とら日月ししし思勢いふさび
亀窪

まき子の冬田ふあしよ荏葉の
文如

便船さししよよ村しれ
左良女

佃ししぬりのさしちや
夷塚

とらあまきししれはゆふくは海風
梧井

あつらひのやまと穴くちまき
九草

白くぬき日あつちちち枯屋
信別
秋屋

まきししちちちしれししの株
イッ
半星

まきししちちちちちちちち
上
好古

雁了物や古きまのふち指
紫夕

蛤とあつちつあつちつもさき冬の蠅

甲斐

子鳥

萱川もよみつ時雨のまき

丸お

柿のくちかきこもやひ小春

上毛

桑布

冬梅やまつちつあつちつ蟻の穴

麴舟

うすき松の入りや麦と前

古久尔

ま原のうらや小春のとり月

志心枝

空のやもんちつちつわんは

旧山

鄙うらや櫛一物も年用

根笈女

琵琶のや子紙子照はし

竜岳

人あつちつあつちつよ冬の月

春琴

大根のやいさひのあつちつ

玉笑

首のや唇境をよ夜み雪

笋あ

う浪のちつあつちつ月の

南甫

積雪の宿るや雀おと

去耕

水餅をさきや大さの墓ま

蘿月

武系

沖馬只古風をくまもふ

五翁

志々々や人の居るは猶也

思徳

四十雀もその時ふの果をふ

竹筧

と一木樵方の男もほふま

紫雨

影もや月の枯野や菜大根

無芳

煙もあふ人の影も雲あ

冢緝

寺の児文も道く噺や

ちを

月おろくも花津くむ磯

梅夫

夜なる傳の儘一子ま

右雄

日影の多と遠くお風

自来

宇治橋や獨りま

秋也

十カニ

降くちの雪を吹くも

暮玖

煤掃や松を洗ふ雨よ

倅珥

樽華や鶴の足て居る 金のうへ

南華

水俣や藪浜ふらぬ 藪柑子

昌風

明松うゝみ柱とあくる 丸あぶら

十車

五甲雙も枯ゆの末に 女松ぞ

玉桂

空月ふ笠手くちう まつり釣

東二

まつみ方ふくむく 野々子

石山

雪の衣の月ちうは ちうは

金鱗

杉の月のちうは ちうは

末人

吹のくひ 藤毛のあや 袖の書

乙学

鰻うのいさか ちうは

山曉

ちうは ちうは ちうは

抽頁

こころも 毎々 ちうは 藤葉

芝英

細引や 坂山 ちうは

依雪

実菊や ちうは ちうは

昌臺

ちうは 見も 人のちうは

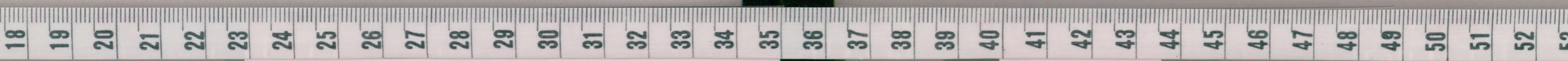
牛佛

山陰のちうは ちうは

西山

端

端



朝日のゆるり寂しき月

磯一

人の住あるよの木の葉の海より

五右

いづれもねや針をゆく可憐

多氏

枯菊の香ももつゝかたきり

信田

雲枯の市文おや戸板より

長翠

恵心寺の果林をきりて

五十二

重久

あゝ〜後雪もよもや人の墓

遊園

山雲をよみて中を鮫の宿

由留

雀さく起ひて居るの雲より

信引

素弓

きん〜きん〜の林を〜

葉中

水俣や岩をよみておの山

如光

あゝ〜けをの角力の〜

半古

松の雲月のあゝ〜

春香

ほろ〜りさなは冬雨

梅貞

21

49



古池のあひあひの夜は月 イセ 丘高

花の空をよめる 樹の白 菊に

うしろの岸折 菴の柱の 栲堂

山崎の二つんち 大坂 端馬

うしろの周の枝もあはれ 春思

こがしのあはれ 長島 長島

うしろのちのち ラハト 士朗

あはれ あはれ

あはれ あはれ

あはれ あはれ

あはれ あはれ

あはれ あはれ

あはれ あはれ

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

いよこしにむ来世を西よのい云

明



山鳥のあはれなまゝなる時ど

赤雅

花のいろは山をゆく柳のま

麦茂

夕まやまゝに霞のしほり

菱花

櫛のひらや押さけしむのさく

杜宇雨

蝙蝠や夕なむく丹波口

亀園

蝶々のちやちやめのお

夢雨

この月文花あはれなる山

楽分

松風を賣ともやと心ち

龙道

春もや縁子ぬる料理な

伯芳

やあゝのまゝにゆくま

茂翠

ふのまゝを志るまゝの山

破窓

寺のまゝを志るまゝの

東兆

花のまゝはらへしむる

信州

亜物

長くはなれぬおひの

露草

花のまゝのまゝに

サカミ

梅岩

花のまゝのまゝに

サカミ

鶏山

鰻の湯見のまゝくゆれ定られ

哥の女

とらふのくまをわしちわら小甚ど

其友

蝶ちよふ文りおそんちよのり

奇峰

埴花のゆゆしきものや根紫

喃山

刈杖の根引強き一茄子山

松調

菴のききんふ小湯うききり

昌あき

五ト

この水母を切築也鴨

七津一海ふ新丁苑乃

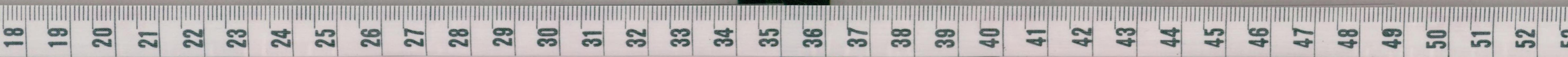
井をさかみけきりま吉所

大人のおこさくおきぬ

そまなまいはいけ板ふ

あはれいふに
まじりし志羅の
いさよや心を
於終るる古山に
ら如き侍をよむ

人の耳きおと後
あはれいふに
大人なまじりし
あはれいふに
あはれいふに



863
77

錦衣園
とある

判印

14129

己の心世月

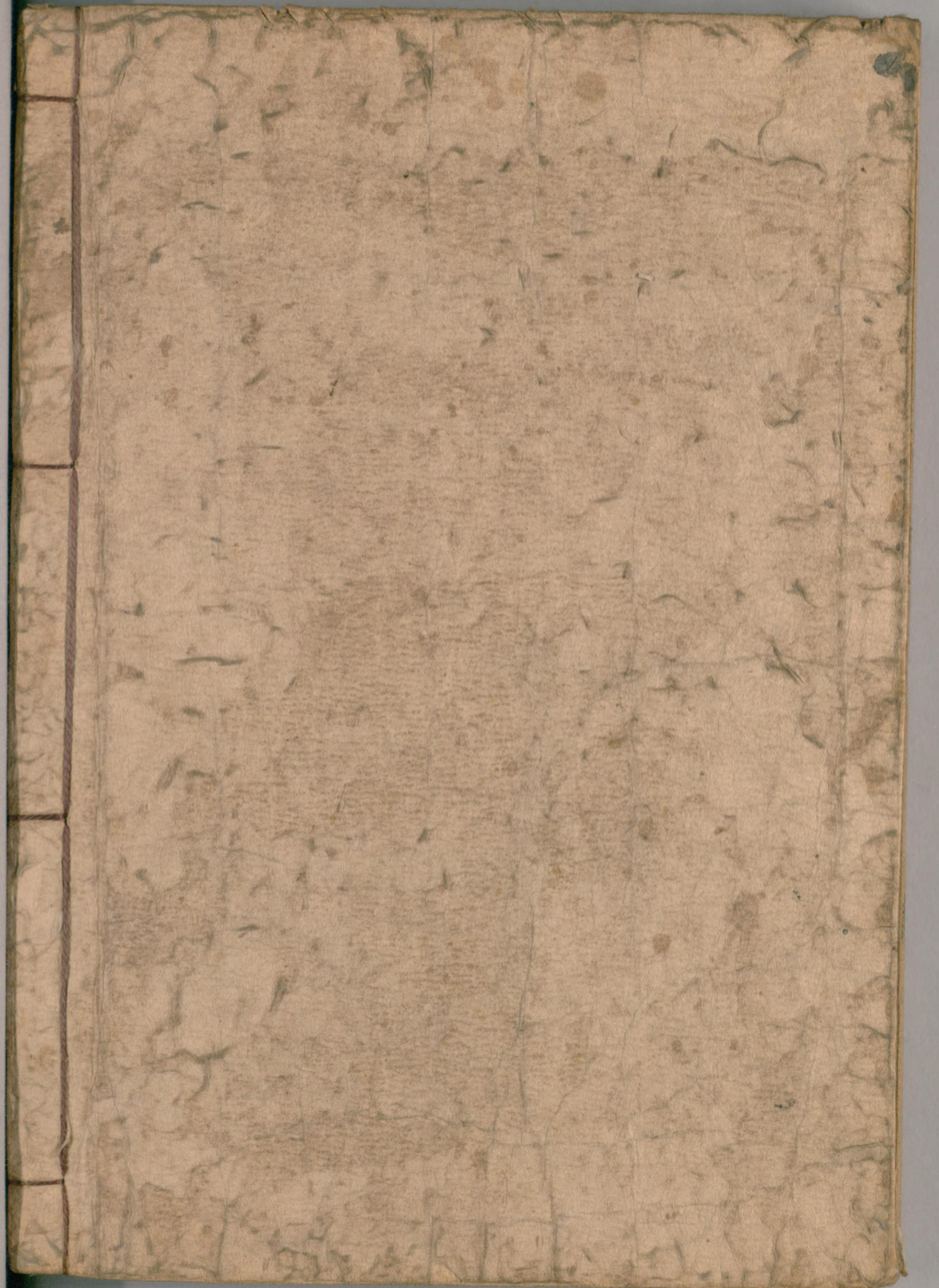
は久井あこのち

豊水いふ

海る呂岐の筆字もて

伝記抄を溢母書

未だ終る未だ



国立国会図書館 タイトル『鳴の井』 請求記号 863-77

ガラス使用